

『^わ環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	平成19年10月16日	
		作成部署	土木建築部河川整備管理室	
事業名	桂川(上)広域基幹河川改修事業	構想番号	(土・河整)構-19-1	
		地区名	京都市京北町宇津地先～京北町大野地先	
概算事業費	13,000百万円	事業期間	昭和52年度～平成30年度(予定)	
事業概要	過去に浸水被害が発生しており、流下能力が低いことから、河川の護岸改修を行う。 L=14,000m			
関連する公共事業	市道改築工事(亀の甲橋)「京都市」			
ガイドライン		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
	主要な評価の視点			
地球環境・自然環境	地球温暖化 (CO ₂ 排出量等) 地形・地質 物質循環(土砂移動) 野生生物 ・絶滅危惧種 生態系 など	当該河川は、あまり人の手が入っておらず、自然な状態で保全されているので、多様な動植物の生育環境が確保され、多くの動植物の生息が確認されている。	緩やかな法面の土羽構造と、現地発生土の活用により河川植生の回復に配慮し、河道については出来るだけ手を入れないようにして、自然環境への影響を少なくする。	△
生活環境	水環境・水循環 大気環境 土壌・地盤環境 騒音・振動 廃棄物・リサイクル 化学物質 粉塵 電磁波・電波・日照 など	事業実施に伴い掘削土砂が大量に発生するが、極力土砂の発生を抑制する必要がある。	掘削土砂については、築堤工・覆土工事に利用するとともに、隣接の田圃を嵩上げするなど、再利用に努め、不要な残土の発生を抑制する。	△
地域個性・文化環境	景観 里山の保全 地域の文化資産 伝統的行事 地域住民との協働 など	当該河川は、田園地帯を流れる河川であるため、地域住民が親しみやすく、周囲の景観に合わせた河川環境の創出が必要である。	河畔林の保全及び現地発生土を活用した覆土工等による植生の保全を図るとともに、多様性のある水辺空間を保全し、田園地帯にふさわしい河川景観を維持する。	△
地域の環境像	本事業は山間部を抜け、田園地帯を流れる河川の改修事業であり、周辺には豊かな自然と、美しい水田が存在し、景観に恵まれた府内でも有数の地域である。 周辺の良好な自然・景観の保全及び動植物の生息環境への配慮を行いつつ、地域住民の河川への親しみやすさを確保していく必要がある。			